

平成 24 年度公益社団法人第 5 回理事会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 24 年 9 月 28 日 (金)
午後 1 時 30 分から午後 6 時 20 分
2. 開始場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 13 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 2 名
オブザーバー 6 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 小口 高
理事 北 和之
理事 古村 孝志
理事 杉田 倫明
理事 瀧上 豊
理事 竹村 恵二
理事 田近 英一
理事 浜野 洋三
理事 渡邊誠一郎
監事 鈴木 善和
監事 松浦 充宏
6. 出席オブザーバー
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
宇宙惑星科学セクションプレジデント 大村 善治

固体地球科学セクション幹事	木村 純一
地球生命科学セクション幹事	高野 淑識
大気水圏科学セクション幹事	川合 義美
地球人間圏科学セクション幹事	島津 弘

午後 1 時 30 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏孝は議長席に着き、開会を宣言した。 議事に入る前に津田会長より本日の会議の流れが説明された。

7. 報告事項

(1) 2013 年大会準備報告（浜野理事）資料 P1-5

浜野理事より現在のセッション募集状況が説明された。一般から募集する以外の部分、ユニオン、パブリックなどは理事会が中心になって企画することが確認された。2013 年大会での特別企画として NASA ブースが検討されている。6M×8M の NASA のブース出展とジョイントでスペシャルセッションとして Dr. Kaye を招へいすることが検討されている。

又、2014 年以降講演会場を増やすことができるよう、追加になる会場の見積りをとっていることも説明された。年内にはある程度の見通しを立てる予定である。2014 年は AOGS の札幌大会、ジャーナルの創刊などが重なるので 2014 年度の会費の値上げも併せ、タスクフォースを立ち上げることになった。

北理事より連合大会時の撮影のルールを決め、原則的には禁止することを参加申込み時などにアナウンスする旨説明があった。

又 2013 年大会のポスターの提案が 10 月 2 日で締め切られることから、締切後に投票で決めることが確認された。

(2) 委員会報告（小口理事）資料 P6-30

佐藤薫理事に代わって小口高理事より、男女共同参画／キャリアパス支援委員会が 5 月に行ったアンケートの報告がなされ、11 月に第 3 回目のアンケートを行いたい旨要請があり、満場一致で承認された。

(3) 登録商標取得報告（古村理事）資料 P31-32

古村理事より、第 3 回理事会で提案された JpGU の商標登録が認められ、8 月 3 日付で登録されたことが報告された。これにより JpGU の商標は大文字、小文字、斜体など関係なく連合が専用使用権を有することになった。

(4) 財政状況について（中村理事）資料 P33-36

2013 年度に値上げをする必要はないことが確認されたので、2014 年度からの値上げを見据えて今年度から連合の財政状況の検討に入ることが報告された。

(資料訂正 : P34 見直しを行うべきもの オリンピック関連 120 万円→80 万円)

(5)地学・地理オリンピック (瀧上理事) 資料 P37

地学オリンピックは今年度のアルゼンチン大会から英語を母国語に翻訳することなく英語のままですらうことになり、ますます英語力が問われることになる。2013 年度はインドで開催される。2016 年度 8 月末の日本の三重県での開催がアルゼンチン大会で決定される。一年半程度をかけて募金活動を行うことになる。地理オリンピックは 2012 年度はドイツで開催され、日本は銅メダルを 1 つ獲得した。2013 年 7 月には京都にて国際地理オリンピックが開催される予定である。

(6)国際地理学会議日本ブース展示報告 (島津セクション幹事)

第 4 回理事会で決まった国際地理学会議への日本ブース展示に連合のパンフレットなどを展示したことが説明された。経費は地球人間圏科学セクション経費より捻出された。

(7)義捐金について (津田会長)

畠山理事に代わり、津田会長より義捐金の残金の使用方法について説明がなされた。要請があり、まだ支援していない 10 校に、残金 80 万円程度を 8 万円づつ現金で支援することが説明され、満場一誌で承認された。2012 年度 12 月末までに現在ある義捐金は 0 円にするが、今後とも現地と連絡をとりながら必要なものを支援していくことも確認された。

(8)その他

1. AGU 選挙について (津田会長)

AGU の役員 (Board of Directors) 選挙に国際学術委員会委員長の Wallis 理事が立候補していることが報告された。個人レベルで応援していくことが確認された。

2. セクション経費について (津田会長) 資料最後のページ

各セクションにはセクション経費として 40 万円まで支給されるが、繰り越しは原則出来ないルールになっている。融通を持たせてほしいという意見もあるので総務委員会と財務委員会で話し合い検討することになった。

3. 日本学術会議関連 大型研究 マスタープラン策定の方針について (津田会長)

資料 P38-41

日本学術会議の大型研究マスタープランの改定について津田会長より説明があった。学協会長会議では永原先生に説明していただくことが確認された。

15 : 40 一時休会 15 : 50 再開

8. 審議事項

第 7 号議案 ジャーナル関連 (今後の日程、名称・計画調書内容検討) (川幡理事) 資料 P56-65

8 月 15 日付けで、連合のジャーナルに関する現状や趣旨を理解していただくために Q and A をまとめて、理事、サイエンスセクションに配信するとともに連合のホームページへ掲載した。1 万字以上で丁寧に説明しているので参照いただきたい。

又、現在、科学研究時補助金（研究成果公開促進費-国際情報発信強化-）への申請準備を進めている。申請書（案）に基づき、項目ごとに詳しい説明が行なわれた。機関を通じての手続きを考えて10月20日すぎにまとめることになる。申請後は来年5月にヒアリングがおこなわれる予定である。

創刊は平成26年1月、発行形態はオープンアクセスの電子ジャーナルとし、内容はレビューと連合大会での発表からセレクトした論文とする。特に、将来的には特別セッションなどを開催して、質の高い論文を掲載する新規試み、スマートフォンなどを用いて合同大会時の利便性を増して、引用増への案などが紹介された。

理事会メンバーが中心となってジャーナルの名称を10月初旬までに決めることが了承された。（2回の投票を行った結果、10月11日現在で“SPACE AND GEOSPHERE”と仮題とすることとなった。なお、最終的なジャーナル名は出版会社との契約後にマーケティングなども考慮して理事会で決定される予定である。）

今後の予定としては、10月初旬にJSPSを訪れ、申請に関するテクニカルな部分について質問するとともに、10月9日のJSPSシンポジウムに参加してさらなる情報を集め、10月初旬に「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」を開催して、JpGU参加学協会とも情報を共有することと伝えた。なお、EPS後継のレター重視の雑誌との共同作業も緊密に行われていることが報告された。

学協会あてに9月末までをめでどお願いしていたエディター、運営委員会メンバーについては、10月第2～3週に集まっていただき今後の方針などを検討する予定である。

第1号議案 会員（正会員、団体会員、賛助会員）入会承認の件（古村理事）資料 P42-45
定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者「地球環境史学会」を49番目の学協会として承認した。「地方都市コンベンション関連団体事務局」の賛助会員登録も承認された。

第2号議案 事務局職員労働条件通知書の承認の件（古村理事）
事務局職員5名の労働条件通知書が承認され、7月1日に遡っての適用が承認された。

第3号議案 共催、協賛及び後援に関する規則承認の件（古村理事）P46-51
審議の結果、細かな字句の修正を経て規則が承認された。
連合が深く関わる地学・地理オリンピックについて、連合での協賛手続きの必要性について議論した。今年度は共催の手続きを行なうこととし、来年度からは事業計画に共催することを記載することで対応することとする。

第4号議案 旅費規則制定の件（古村理事）資料 P52-53
旅費規則の制定について古村理事より説明があった。旅費のうち、日当については辞退

できる条項を設けるべきとの意見があった。日当の必要性を含めてメール審議を続け、次回理事会で規則を制定する。外国旅費規則についても制定の準備を進める。

第5号議案 謝金規則制定の件（古村理事）資料 P54

謝金規則の制定について古村理事より説明があった。これは、シンポジウム等での講演に謝礼を想定したものである。本件についてメール審議により意見を求め、次回理事会で制定する。

第6号議案 AOGS2014 札幌への対応方針（津田理事）資料 P55

AOGS2014 札幌への連合の関わり方について津田理事より説明があった。共催はせず、連合としてはLOC(Local Advisory Committee)を立ち上げ、協力することが確認された。メンバーとして連合の会長副会長、セクションプレジデント、北海道大学の渡部重十先生が入る。又、学術会議の永原先生 中島先生 大久保先生 川口先生 安成先生 碓井先生 山川先生にお願いをすることが確認された。

第8号議案 学協会長会議の議題について（津田理事）資料 P66-67

10月2日（火）の学協会長会議の議題に「Journalに関する調書への記入について」を追加することが確認された。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（午後6時20分）
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成24年9月28日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第5回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	小口	高	印

出席理事	北	和之	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	杉田	倫明	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	竹村	恵二	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	渡邊	誠一郎	印